

平成30年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進 <input checked="" type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	学びのユニバーサルデザイン(UDL)による授業改善とその効果検証
報告者氏名・所属・職名	川俣智路 教職大学院 准教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	川俣智路 教職大学院 准教授
研究内容及び成果の概要	
<p>UDLは「学習科学に基づいた三原則をめぐって構造化された指導のフレームワークである。」(Rose & Gravel, 2010, Hall et al., 2012/2018, p.13)とされる(三原則とは提示(理解)、行動と表出、取り組みに関する多様な方法の提供である)。本研究の目的は、UDLの枠組みに沿って、高等学校の授業改善を実施することである。</p> <p>調査・研究は2018年4月から2019年3月まで実施された。調査協力校は東京にある通信制高校サポート校であり、支援ニーズのある生徒を積極的に受け入れている高等学校である。プロジェクト担当者は、2015年からこの高等学校と共同研究を実施している。UDLが目指す最終的なゴールは、自分の学びの真実味に基づいて、主体的に調整しながら学べる「学びのエキスパート」を育てることとされている。特に今年度は、生徒が学ぶことに真実味を見出し、主体的に調整して学べる環境が実現し、生徒自身の主体的に学んでいる体験を強化することを目的とし、複数回研修を実施し、その内容を授業で試行する形で授業改善に取り組んだ。</p> <p>教員は授業のゴールとそれを学ぶ理由を生徒に明確に示し、UDLの三原則に基づいて学ぶ方法を複数用意し、生徒が主体的に調整しながら学ぶことを促した。その結果、授業に関わることができない生徒が減り、生徒がそれぞれ目的を持って学ぶ様子が多く観察されるようになった。さらに、授業時間に「先生、ネットで調べて考えても良いですか?」というような、教科や単元を問わず自分に適した方法を検討する場面が見られるようになった。これは学校全体でUDLに取り組んでいることにより、生徒が「学びのエキスパート」を目指し成長していることを示唆しているだろう。実際に、学校環境適応感尺度「アセス」の「学習的適応」の得点が増え、生徒の学習に対する意欲や被支援感が改善されるなど、教師が感じる変化だけでなく、生徒の内面における肯定的な変容も示された。</p>	
成果の公表の状況	
【著書】	
【学術論文】	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
リーフレット『わかりたいあなたのための学びのユニバーサルデザイン 改訂版』	
配布又はダウンロード可能な資料	https://bit.ly/2Yvg7I7 (わかりたいあなたのための学びのユニバーサルデザイン改訂版)
問い合わせ先	代表者：川俣 智路 電話： FAX： mail：